

戦では少ないで、少ないでよい。劣勢に立たせん。失敗はウクライナ人。的解決は難

「レンスキー部が占領さわけにはい。のプーチンにかかわるません。双はありませで長期化す。向の反攻を定がかりに作戦で領土つもりでしロシア国内が広がった。し合の機能有り。い中国やトを見せいで影響を与

も内倒を倒す。狙った。底にす。核し。光目

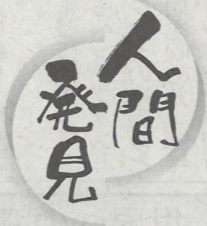
「こんなことを知りたい」といったご質問やご意見があれば、nikkey@nex.nikkei.co.jpまでお寄せください。

■戦車「レオパルト2」
■歩兵戦闘車「マルダー」



最期は笑って

おがさわら ぶんゆう
医師 小笠原 文雄さん



人はどんな最期を迎えたいだろうか。多くが、できれば苦しみに逝きたいと望むだろう。「末期がどんな病状がどんなに絶望的な患者でも、最期まで自宅で明らかに暮らし、清らかに旅立てるようにケアする」。医師で日本在宅ホスピス協会会長の小笠原文雄さん(75)は「在宅ホスピス緩和ケア」の推進に力を注ぐ。在宅医になって34年。在宅医療でみとった患者さんは約1900人、うち一人暮らしの患者さんは120人を超えました。多くの患者さんが「住

み慣れた家で最期まで笑って暮らしたい」という願いをかなえ、旅立られています。名古屋大学医学部を卒業し、1989年に岐阜市内に小笠原内科を開業するまで16年、主に公立病院で働きました。循環器の医師として臨終の場面に立ち会うことも多く、そのたびに「死とはつらいもの」と感じていました。しかし、在宅医療に携わるようになり「最期の生き方は自分で選べる」こと、「住み慣れた家で、最期まで笑って暮らせる」ことができるようになりました。経験を重ねると

在宅で1900人みとる ■ 願いかなえば「満足死」

ちに、在宅ホスピス緩和ケアという理想の在宅医療を見つけたのです。在宅ホスピス緩和ケアとはどんな医療なのか。は「在宅」とは患者さんが暮らしていることです。「ホスピス」とは、いのちを見つめ、生き方、死に方、みとりのあり方を考えること。「緩和」とは痛みや苦しみを和らげること。「ケア」とは人と人がかかわり、お互いに温かいものが生まれ、生きる希望がわき力がみなぎること。こうした医療を在宅ホスピス緩和ケアと言っています。患者さんと離れて暮らす家族が「病院なら安心、家だと心配」と考え、入院させようとする。本当はそうなのか。患者さんにとって、病院は安心できる場所のように、実は病気に闘うストレス空間でもあります。病院には医師や看護師など多くのスタッフがいます。でも、患者一人ひとりに細かく目を配るのは難しいのが実情ではないですか。周りに大勢の人がいるのに孤独。それが現実ではないかと思つたのです。住み慣れた家は癒やしの空間です。生まれるところは自分で決められませんが、死ぬところは決められます。自宅に限ったことではありませんが「ここに居たい」と思える



略歴 1948年岐阜県生まれ。名古屋大学医学部を卒業。同大学第二内科勤務などを経て1989年小笠原内科を開業。在宅医として多くの患者をみとる。日本在宅ホスピス協会会長。浄土真宗伝法寺住職。

場所で暮らすことが安心につながるのです。「最期まで家にいたい」と希望する患者さんに「ご家族が反対した際に、私はこんな言葉をかけます。「人生は一度きりです。家族の都合よりも本人の願いを優先してあげましょう。本人の願いがかなうと『希望死・満足死・納得死』ができますから」小笠原内科では在宅医療をするに当たって「アドバンスケアプランニング(ACP)」と呼ぶ会議を開く。参加するのは患者さんが「願いを伝えておきたい」と思つた人たちです。家族、医師、訪問看護師、歯科医師、薬剤師、療法師、管理栄養士、ケアマネジャー、介護職、福祉用具専門員、ボランティアなど多岐にわたります。民生委員や町内会長、役所の人が参加する場合もあります。家族や親族の中に在宅医療を反対する人がいるときは、ACPに連れてきてもらいます。反対する理由を聞き、メリット、デメリットなどを話します。知らないことや初めてのことによる不安を感じるのには当然です。しかし、じっくりと話し合ううちに、ほぼ全員が納得がいく結論が出ます。在宅ホスピス緩和ケアで、幸せな最期を送ってもらいたい。こんな素晴らしい医療があることを多くの人に伝えること、この医療を広めるため後進を育成すること。それが私の使命だと思っています。(大橋正也が担当します)

デンシバ Spotlight

じわり拡大「インパクト評価」

企業活動や事業、イベントなどが、社会に与える影響の大きさ(インパクト)を数値で示す「インパクト評価」が広がっています。取り組みのコストに対し、何倍の効果が得られるかを算出する仕組みです。イベントの参加者にインパクトの大きさをリアルタイムで示し、参加意識を高める工夫も始まっています。インパクト評価の指標としてよく用いられるのが、「社会的投資収益率(SROI)」です。政策評価などに使われる費用便益分析の一種で、事業の実施で生じる社会・経済・環境面の変化(アウトカム)を金額で表します。デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー

社会貢献度の新たな指標に

あるとされ、メンタルヘルスの改善を通じて医療費削減にもつながります。また、習慣化すれば近距離の移動に乗り物を使わなくなり、二酸化炭素(CO2)の排出減も期待できます。デロイトトーマツFFAは、参加者へのアンケートなどを通じてイベントが生むアウトカムをモデルを使って分析しました。参加者の総歩数(約50億歩)から計算した医療費削減効果は4000万円。CO2削減効果は40万円でした。金銭換算した効果を、イベント実施費用で割ったSROIは8.4倍に達しました。今回のイベントでは参加者のモチベーションを高めるため、デジタル技術を使った新たな工夫も取り入れました。参加者が使うスマートフォン上の歩行アプリ上に仮想的な公園をつくり、医療費削減の金額に相当する遊具を設置し、CO2削減に見合う樹木を植えました。「ウォーキングによるインパクトがリアルタイムで見えるようにする」(ワン・コンパスの山岸靖典氏)の取り組みです。SROIを使った社会事業(編集委員 吉川和輝)